



拝三小の教育

学校HP www.city.akishima.ed.jp/~hajijima3

昭島市立拝島第三小学校
校長 松井 茂

TEL.042-541-1274 FAX042-541-7907

本とじっくり向き合った読書旬間（6月15日～6月26日）

4月の保護者会で、今年度の本校の教育活動のキーワードとして「豊かな言葉、言語環境」というお話をしました。その取り組みの中の一つに読書があります。今年度から毎週金曜日を朝読書とし、落ち着いて本と向き合う時間を作って取り組んだり、図書の時間の活用や読み聞かせ、国語で学習した作者の他の著書を読む並行読書などを進めたりしています。また、読書旬間に合わせて図書委員会の子どもたちの発案で読書ビンゴにも取り組んでいました。

読書旬間は、本の世界へ子どもたちをいざなうことにより読書活動の面白さに気付かせたり、興味・関心の分野を広げさせたりすることをねらいとしています。家に帰ってから読書していた子、厚い本を読んでいる子など、絵本から小説まで様々なジャンルの本を読んでいた。保護者の方や図書支援の方から、いつも読む分野ではない本を読んでいることがありましたと嬉しい報告もありました。読書は、実際に多くの物事に触れなくてもそれを見たかのような気持ちにさせてくれます。この読書旬間が読書へのきっかけとなり様々な本との出会いを通して、普段できないことを疑似体験して豊かな感性が育ってくれることを願っています。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
読書旬間	385 冊	473 冊	423 冊	408 冊	599 冊	283 冊	2571 冊
4～6月	1193 冊	1614 冊	1634 冊	1717 冊	2023 冊	1067 冊	9248 冊

絵本は子どもの心を動かす魔法

ノンフィクション作家の柳田邦男氏の講演会に参加した時、「子どもの心が飛躍する時～感性・思考力を引き出す『本の力』」という演題で、子どもが小さいうちから絵本の読み聞かせをすることがとても重要だということを事例を挙げながら話されていました。読み手が感情を込めて読むことで子どもは実体験したことと同じになることや絵本には子どもが成長していくために必要なことが全て書かれていることから、たくさんの子どもたちに（高校生でも）読んでほしいと言われていました。一方で、スマートフォンの普及に伴ってそれに頼りすぎることに危機感から、家の中で言葉を交わし感情表現したりスキンシップしたりすることを忘れないでほしいとも話されていました。下記の表は、講演会資料を抜粋したものです。

《情報環境の激変と読み聞かせの新しい意味（柳田邦男氏 講演会資料より）》

<ケータイ・ネット社会の負の側面>

- 1「無自覚依存症」に陥りがち
 - 「便利・簡単・楽しい・役立つ」ゆえに頼りがち。それがないと落ち着かない。
 - 本格的な「依存症」（ゲーム・ケータイ）
 - ・24時間、放せない、人との接触が少なくなる
- 2自己中心的になる
 - ・一方的な発信・他者を思いやる心が育たない
- 3バーチャルと現実の境界が曖昧になる
 - ・「いのち」の感覚が身に付かない
- 4「匿名」によるモラル喪失
 - ・生身の人間同士で使わない言葉を平気で使う
 - ・「掲示板」「裏サイト」による中傷・いじめの日常化
- 5有害サイト・出会い系へのアクセス

<絵本の「読み聞かせ」のすばらしさ>

- 1言葉を発達させる
 - ・選び抜かれた優しい言葉・物語の展開に合わせた言葉
- 2感性・感情を分化発達させる
 - ・絵の力・たのしさ・読み手の感情
- 3文脈理解力を発達させる
 - ・人間関係の理解力 受容・共感・協力・協働・高揚
- 4読み手の感情表現でリアルな世界に入り込む
 - ・肉声・肌の温もり・感情の共有
- 5子どもが時間をコントロールできる
 - ・ゆっくり深く味わう心が育つ
- 6親も心が穏やかにやさしくなる
 - ・子どもの心の安定に不可欠
- 7親と子の生身の触れ合いの時間になる
 - ・親が自分と100%向き合っている
- 8心の「ふるさと」が刻まれる
 - ・優しく懐かしいシーン

夏休みには、長い休みでしかできないこと、目標を決めてチャレンジすること、そして、親子で読書すること（読み聞かせも）など有意義に過ごし、一つ成長した子どもたちと元気に2学期出会えることを願っています。